

1 男鹿ふつと観光案内所



平成3年(1991)にオープンしました。野菜直売コーナーや地元食材を重視したレストランなどで館内は充実しています。地域の特産品であるメロンのタワーが目印です。

2 忠魂碑



大正15年(1926)6月25日に建立された、高さ約3.5m(台の石を除く)の忠魂碑です。日清・日露戦争(1894・1904)の戦没者のために建てられました。

3 中田五平・中田五平頌徳碑



なかた ごへい
中田五平 【天保8年～大正10年】
(1837～1921)

～プロフィール～

現在の能代市に生まれ、渡部家の後見人となりました。明治22年(1889)には初代弘戸村長となり、教育を重視した村づくりを行いました。私財を寄付して弘戸小学校を建設し、貧困家庭の児童には私費で給食を始めました。その他、社会福祉や農業、漁業、林業など村の発展につくしました。



中田五平の功績を称えて大正10年7月に建てられた、高さ約4m(台の石を除く)の碑です。工事は村民などの奉仕によるところが大きかったようで、工事費総額は2,563円でした。

4 渡部斧松・渡部家正門・村法碑



わたなへ あきのまつ
渡部斧松 【寛政5年～安政3年】
(1793～1859)

～プロフィール～

現在の能代市出身です。27歳の時、藩の許可のもと、弘戸村鳥居長根(現在の弘戸字渡部)の開墾をはじめました。水源を五里合の滝の頭に求め、苦勞の末、水路を完成させました。その水路は私財を含めて600両の経費がかかったそうです。現在でも郷土の偉人として学ばれる人です。



村法碑

安政3年(1856)6月に建立された高さ約2mの碑です。渡部斧松と従兄の謙助によって渡部村の村法として定められました。風紀や村の運営、田植えについてなど22か条が刻まれています。



渡部家正門

建てられた年代は記録がなく不明ですが、四脚門の堂々とした門構えに渡部家の風格が表されています。現在は渡部家の門と蔵だけが残されています。

5 渡部神社



渡部村の開拓にあたり、その水源となった滝の頭の今木神社を分祭し、天保4年(1833)に創立しました。明治29年に社号を渡部神社とし、大正15年に渡部斧松を合祀しました。

6 渡部神社参道の石碑群



江戸時代の終わりから戦前にかけての石碑群です。庚申塔・太平山供養塔・金比羅講供養塔など様々です。ちなみに参道にある石碑で最も古いものは、文政3年(1820)の庚申塔です。

7 向性院



向性院

臨済宗寺院で、寛文年間(1661～1673)に開創され、久保田城下にありました。その後一度廃寺となりましたが、嘉永3年(1850)に渡部斧松を開基として再建されました。



渡部斧松の墓

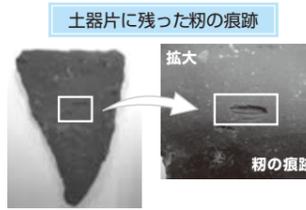


中田五平の墓

8 横長根A遺跡



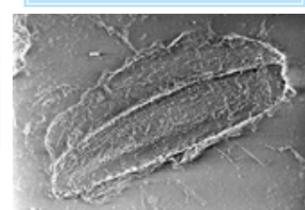
弥生時代中期(今から約2200年前)の遺跡です。当時の家である竪穴建物跡や、土器、石器が見つかりました。また炭化した米や、粉の痕跡が残る土器などが出土し、男鹿と稲作の関係が注目されます。



土器片に残った粉の痕跡

撮影：明治大学 高瀬克範氏
土器に残る粉の痕跡です。これを型どって顕微鏡で観察したものが右の写真です。

粉の痕跡を型どった顕微鏡写真



10 八龍神社・張切紀年碑



小深見神社の境内にあります。明治34年(1901)に建てられました。張切はボラ漁で行われる漁法の1つです。ボラ漁について八龍神に感謝するため漁業関係者が建てたものです。

12 菅江真澄の道「弘戸」



江戸時代の紀行家である菅江真澄が文化元年(1804)に弘戸を訪れました。「男鹿の秋風」の中には加藤久三郎氏の家で安東実季の書状を見たことが記載されています。

14 木元順治頌徳碑



木元順治は明治20年頃自宅に塾を開き、教育と郷土の啓蒙に尽くしました。両手が不自由であったため、口を使って右手の指に筆をはさんで学問を教えたそうです。この碑は門下生によって、明治42年に建てられました。

16 消防組合員招魂碑



明治43年(1910)に結成された弘戸消防組は第1部から第3部に分かれていました。この碑は第1部組員の慰霊碑で、大正10年(1921)に建てられました。横に並ぶもう1基の碑は昭和47年に建てられた「弘戸土地改良工事竣工の碑」です。

9 小深見神明社



正和3年(1314)の創立といわれています。現在の社殿は明治42年(1909)に建てられました。本殿は春日造で、屋根の下には精巧な彫刻が施されています。



本殿の彫刻

彫刻は力士像・亀・昇り龍・下り龍などがあり、山形県出身の高橋正晴という人が中心となって施工されたものです。

11 峰玄院



曹洞宗寺院で、慶長16年(1611)に開創されました。本堂は昭和6年に旧弘戸村役場の庁舎を利用して建造されましたが、老朽化に伴い、昭和58年に現在の姿に改築されました。

13 小深見川と船着場



小深見川は八郎瀧の干拓事業に伴って整備され、その際に新しい川になったとして、地元では通称「新川」と呼ばれています。現在も10名ほどが船をつけ、シラウオなどの漁を行っています。

15 彰徳碑



小野崎通亮、井口紘は幕末から明治にかけての尊王派で、国学を推進し雷風義塾という塾を設けました。2人の教えを受けた男鹿の神職が中心となって明治40年(1907)に建てられました。

男鹿東中学校2年生の協力を得てつくりました!!

このマップは、デザインや内容など男鹿東中学校2年生の方々のご協力を得ました。学校の職場体験活動の一環として、28名の生徒の参加を得たものです。



番外① 男鹿のナマハゲ



毎年、大晦日の晩に行われます。災いを祓い豊作・豊漁・吉事をもたらす神として、各家では丁寧に迎え、もてなします。各地区で使用される面も様々で、弘戸地区でも行われています。